

2023 年度（令和 5 年度）学校評価自己評価表

幸千 中学校区 校番 14 | 福山市立 千田小 学校

最終更新日 2023年（令和5年）2月20日

I 福山市

**ミッショ**ン 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。  
**ビ ジ ョ ン** 「福山100EN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	思考力・創造力	表現力	思いやり	能動的市民性
<p>○コロナ禍における厳しい現状の中でも、児童・生徒のために活動を拡大・充実し取り組んでいる。</p> <p>●積極的な情報発信を行い、校区の学校・保護者・地域とより連携を深めて欲しい。</p>	<p>●不登校出現率が高い。</p> <p>●運動不足、体力の低下が見られる。</p> <p>○地域の行事やボランティア活動に主体的に参加する児童・生徒が増えている。</p>	<p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>○主体的に学び よく考える児童生徒</p> <p>○思いやりのある児童生徒</p> <p>○住み続けられる町づくりを考えることを目的にした学習を核に各教科と関連づけたカリキュラムを実施することで、めざす子ども像に迫る取組を行う。</p> <p>○生徒の実態を細やかに分析し、生徒のつまずきの要因に対応した指導と支援を行う。</p>	<p>○自分なりに表現し伝え合う児童生徒</p> <p>○人や社会に貢献しようとする児童生徒</p>		

III 自 校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理”)	思考力・創造力		表現力	思いやり	能動的市民性
変化の激しい社会の中で、未知な状況に自ら挑み続ける児童・教師 ～自分で〇〇 みんなで〇〇 挑み続ける千田小～	学校教育目標 挑む～学ぶ・想う・伸びる～		学ぶ	想う	伸びる	伸びる	伸びる
めざす 「挑む」 子ども像	自分で みんなで 挑み続ける	自分から進んで学ぶ ことができる子 仲間と協力して学ぶ ことができる子	相手のことを認め、応援 することができる子 互いに認め合い、助け合う ことができる子	相手のことを知り、伸ばそうと することができる子 相手のことを知り、ともに伸びようと することができる子	日常的に行動する・最後まで粘り強く取り組む 「もっとすごい」を目指して修正する		
現 状 (昨年度までの成果〇と課題●)	研究	テーマ	挑む～「学ぶ喜び」のある授業づくり～	内容等	5つの教科チームに分かれてその教科における「学ぶ喜び」について研究し、交流することで学校としての「学ぶ喜び」のある授業の姿を追求する。	めざす授業の姿	児童が学びを「楽しい」「おもしろい」と感じることに留まらず、「わかった」「できた」喜びや学んだことを「生かせる」「深まる」喜び、他の教科での学びが「つながる」「広がる」喜びなどを味わうことのできる授業を目指す。 そのためには、子ども主体の学びを支えるファシリテーターとしての教師の在り方を探求する。

## IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 千田小 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	加セス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	加セス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
2	個性を發揮し、自ら挑み続ける教職員	★	見直し	・自らの強みや個性を生かした目標に向けて実践する	・学年会・分掌部会などでそれの目標を共有し、互いにアドバイスし合うことで自己更新へつなげる（My Challengeとして位置づける）	(1)業績評価の目標のうち、My Challengeとして設定した項目の達成度評価（自己評価）において4以上の教職員を8割以上 (2)教職員アンケート「目標や夢に対して当事者意識をもって挑戦ができている」の強い肯定的な回答を7割以上	・学年会を中心に、My Challenge を共有したが、アドバイスをするまでは至っていない。 ・夏休みに全体で My Challenge の目的や意味について考え、取組を見直した。 (1)66.7% (21/32人) (2)51.3%（肯定的回答 93.1%）	3	3	・日常的に意識できるように、定期的に振り返る機会を設ける。 ・My Challenge を掲示して見える化し、互いの実践について励まし支え合えるようにする。（再度学年会に位置付ける。）	・職員室に掲示したり、学年会で振り返りを行ったりすることで、目標と日常の実践をつなげて捉えることのできる教職員が増えた。 ・My Challenge の自己評価を過小評価する傾向があるため、設定した目標や評価基準が妥当であるか検討する必要がある。 (1)81.2% (26/32人) (2)48.3%（肯定的回答 89.7%）	4	4	4	・「自らの強みや個性を発揮することで働きがいにつなげる意識の醸成を図る。 ・My Challenge として設定している目標や手立て、評価指標の妥当性についても見直しを行うことで、自身の成長へつなげることができるように交流の仕方を模索していく。
2	習得した知識・技能を活用できる資質能力の向上	★	見直し	・教職員が児童の学びの成果を捉えて評価し、指導の改善につなげる ・児童が学びを実感し、様々な形で学んだことを生かす	・教材研究の質を高める（学びのゴールを児童の姿でイメージする） ・児童が学びを実感できる振り返りの場を設定する	(3)標準学力調査で昨年度より結果を伸ばした児童の割合を8割以上（1年生は得点率30%未満の児童の割合を15%未満） (4)児童アンケート「学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」の肯定的答を70%以上	・研究授業後や学力テスト分析研修後に「授業改善宣言」を行い、研修を授業改善につなげられるようにした。 ・振り返りの児童アンケートの結果が伸びているが、その要因は不明。 (3)12月実施 (4)83.9%	3	3	・Google Classroomを使って授業実践交流を行い、指導改善につながるような双方のやりとりが行われるようにする。 ・児童の学びの自覚化に有効な振り返りについての実践を共有し、自指す振り返りの姿を明らかにするこにつながった。 ・標準学力調査を【標準スコアによる経年比較】で見ると 5 学年 × 2 教科 = 10 項目中 7 項目に伸びが見られた。 (3)52.1%（1年生:1.5%） (4)81.2%	4	3	4	・目標に対する成果を見取る評価指標の設定の仕方を見直し、集団や個人、経年比較など多様な観点で分析することで現状を捉え、授業改善に生かすようにする。 ・児童の資質能力向上につながるような授業づくりについて、教科の本質を追求しながら、引き続き追求していく。	
2	互いを認め合う雰囲気で満ちた学校	見直し	見直し	・千田小学校の全ての人が相手を大切にする行動、言葉を使えるようになる	・掃除の仕方を学ぶ機会を設け、掃除に対する意欲を高める ・「君それいいね」プロジェクトを継続し、憧れとなる良い姿を学校全体で共有する	(5)掃除に対する肯定的意識をもつ児童の割合を年度当初より伸ばす (6)「学校、学級が居心地のよい場所である」と感じる児童・教職員の割合を90%	・6月から縦割り掃除を始め、それぞれの担当を責任もって取り組もうとする児童の姿が見られた。 ・「君それいいね」プロジェクトは自発的に取り組む姿が多い。 (5)90.8%→92.1% (6)児童 86.4% 教職員 93.1%	3	3	・掃除の仕方を学び、自指す姿を広める活動を行う。 ・相手意識をもった行動を「君それいいね」プロジェクトで取り上げる。 ・特別活動での実践を交流する。	・「マイぞうきん」の取組を通じて、物を大切にしようとする児童が多く見られるようになり、掃除に対して前向きに取り組む児童が増えてきた。 ・「君それいいね」プロジェクトを掃除や学習、行事に焦点化して実施したことで自発的に取り組む児童が増え、他者意識を向上させることにもつながった。 (5)90.8%→92.1% -91.6% (6)児童 87.6% 教職員 94.4%	4	4	4	・学校行事や児童、教職員共に頑張りたいことを、学校全体で周知して行っていく。  ・低学年を中心に掃除の仕方を外部講師から学ぶ取組を継続して行い、学校全体で仕方を学ぶ機会を設けていく。

1	自らの健康維持・促進に努める	新規	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の健康（運動・食・安全）について考え、体作りができるようになる児童を増やす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験的に憧れや理想となる姿を学び、運動への意欲を高めたり、運動する時間や場の設定をしたりする</li> <li>地域と連携し、体験的な活動を通して、食の大切さに気付くことができるようにする</li> <li>怪我をする児童を減らす取り組みをする</li> </ul>	<p>(7)運動に親しんでいる児童の割合を80%</p> <p>(8)好き嫌いなく給食を食べている児童の割合70%</p> <p>(9)以前よりも怪我をしないように気をつけて生活することができた児童の割合を80%</p>	<p>・行事を通して運動が好きだと回答する児童が増えた。</p> <p>・熱中症対策などで外遊びができない時の取組ができていない。</p> <p>・全体的にアンケートの数値は目標を達成しているが、具体的な児童の様子までは把握できていない。</p> <p>(7)86.7% (8)79.5% (9)85.1%</p>	3	3	<p>・握力向上の取組を行い、基礎体力を高める。</p> <p>・遊びの紹介を通して運動する児童を増やす。</p> <p>・給食時間に学級指導を行う。</p> <p>・わくわく農園の取組を通して食の大切さに気づかせる。</p> <p>・保健委員会の取組やミニ保健で、けが防止についての啓発を行う。</p> <p>(7)85.1% (8)75.0% (9)86.0%</p>	4	4	4	<p>・継続的に外遊びがしたいと児童が想える取組を来年度も実施していく。</p> <p>・わくわく農園の取組や給食時間での取組を通して食の大切さに気付かせ、嫌いなものでも食へようとする態度を育てる。</p> <p>・ミニ保健や学校の危険な箇所についての掲示などを通して危険予測ができるようにする。</p>
---	----------------	----	---	--	--	---	---	---	--	---	---	---	--

## [プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

## [達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多くかった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

## [総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	100%以上の達成度
4	80%以上100%未満の達成度
3	60%以上80%未満の達成度
2	40%以上60%未満の達成度
1	40%未満の達成度